

第2節 高松平野における石器素材剥片

香川県は、石器の素材として利用されるサヌカイトの原産地である。旧石器時代から使用されており、その流通は広範囲にわたる。石器の流通には、製品が運ばれる場合と、素材が運ばれ集落内で生産される場合が考えられる。奥の坊遺跡では、石器が多量に出土すること、剥片が多量に出土すること、未製品が一定量含まれること、定型化しない不整形な石器が多いことから、石器の製作を行っていたと考えられ、Ⅱ区ではサヌカイトの大型素材剥片（第100図1・2）が出土しており、素材を搬入していたことが伺える。

高松平野内での大型素材剥片については不明であったが、近年その報告例が散見できる。今回は概ね200g以上の素材剥片を対象とし集成を行った。高松平野で最も古い事例は、鬼無藤井遺跡出土のもので、弥生時代前期前半～中葉と考えられる。それ以前の様相については、高松平野においては、遺跡数が少ないこともあり不明である。同じく前期と考えられるものは、空港跡地遺跡出土のものである。中世の井戸から出土しているため詳細は不明であるが、周辺に弥生時代前期末の遺構が認められることから、混入の可能性が考えられる。弥生時代中期になると報告例が多く、奥の坊遺跡をはじめ、多肥松林遺跡や浴・長池遺跡において出土しており、素材が多く流通していたと考えられる。特に、浴・長池遺跡では2800gの素材剥片が出土しており、高松平野で最大のものである。一方、弥生時代後期から終末期の遺跡からの報告例は見られない。このため、石器生産のあり方や流通の変化があったことが予想される。

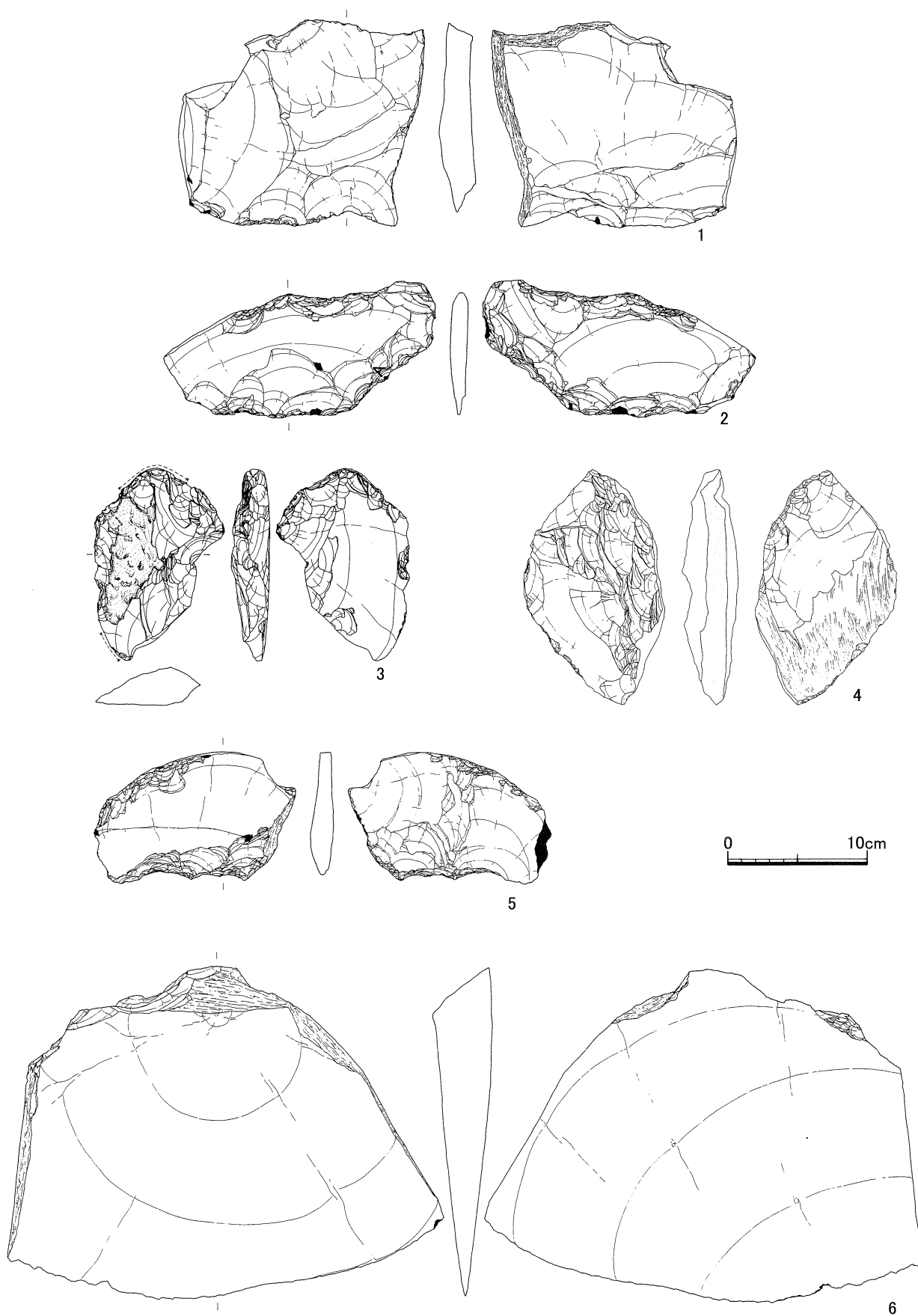
また、素材剥片は3種類に分類できる。まずⅠ類として、第100図1・6・第101図7のように特に大きいもので、自然面や大剥離面を残し、重量が重いものが見られる。石材採取地において採取された状態に近いと考えられる。次にⅡ類として、3・4のようにやや分厚く打割され、石核状を呈したもので、周囲に剥離痕が見られる。また、Ⅲ類として2・5に見られるように、やや小振りに打割され、扁平な形態を呈し、周囲を打ち欠いているものが認められる。これらは、未製品の状態に近く、細部調整を行えば十分石器として使用できるようなものである。なお、Ⅰ～Ⅲ類の剥片形態差による分布や時期的な差は認められない。Ⅰ類は確実に石器採取地から直接搬入されたものと考えられるが、Ⅱ・Ⅲ類は石材採取地で打割されたものであるか、各集落内においてⅠ類から打割されたものであるかは不明である。今後の発掘調査成果で明らかになることを期待する。

高松平野出土の大型素材剥片（概ね200g以上のもの）

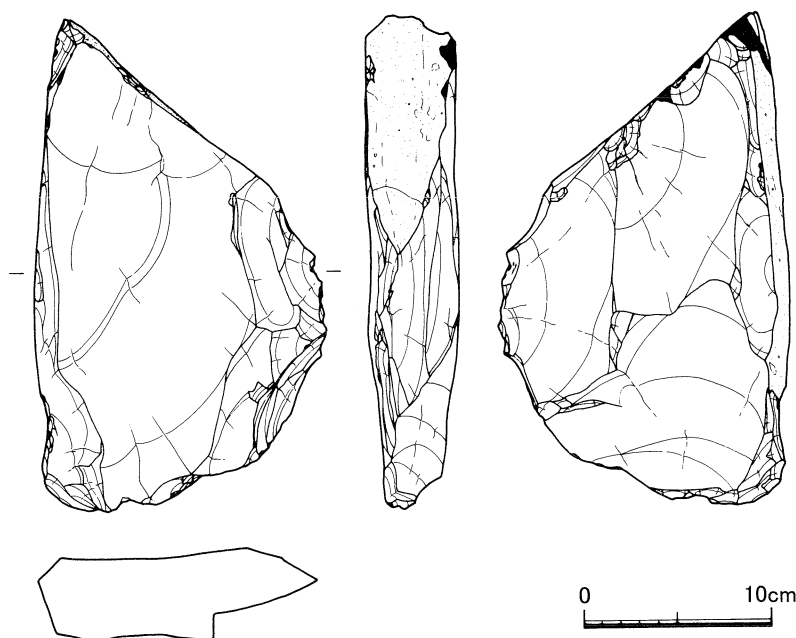
	遺 跡 名	遺 構 名	長 辺	短 辺	厚 み	重 量	時 期
1	奥の坊遺跡	包含層	17.6cm	14.6cm	2.6cm	700.0g	中期前半末
2	奥の坊遺跡	包含層	19.5cm	9.6cm	1.3cm	291.6g	中期前半末
3	多肥松林遺跡	予備調査11トレンチSR	12.5cm	8.1cm	2.8cm	277.6g	中期中葉～後半
4	空港跡地遺跡V	SEa01	15.6cm	9.9cm	4.0cm	529.7g	不明（前期末？）
5	浴・長池遺跡	3区（未報告資料）	14.5cm	9.3cm	1.7cm	222.7g	中期中葉
6	浴・長池遺跡	SR01（未報告資料）	31.0cm	23.3cm	4.2cm	2800.0g	中期中葉
7	鬼無藤井遺跡	SP - A2 - 01	25.9cm	15.5cm	4.8cm	2200.0g	前期前半～中葉

参考文献

- 井上勝之 1980「サヌカイト製石器の製作址」『香川県自然科学館研究報告 第2巻』香川県自然科学館
- 大嶋和則 1999『高松市東部運動公園（仮称）整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第1冊 奥の坊遺跡群Ⅰ』高松市教育委員会
- 大嶋和則 2000『都市計画道路室町新田線埋蔵文化財発掘調査報告 第2冊 川南・東遺跡』高松市教育委員会
- 大嶋和則 2004『高松市東部運動公園（仮称）整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第2冊 奥の坊遺跡群Ⅱ』高松市教育委員会
- 大嶋和則 2004『高松市東部運動公園（仮称）整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第3冊 奥の坊遺跡群Ⅲ』高松市教育委員会
- 大嶋和則 2004『高松市指定史跡 久本古墳』高松市教育委員会
- 大嶋和則 2006『高松市東部運動公園（仮称）整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第4冊 奥の坊遺跡群Ⅳ』高松市教育委員会
- 小川 賢 2001『高松港頭地区再開発事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 鬼無藤井遺跡』高松市教育委員会
- 片桐孝浩 1994『県道高松志度線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査概報 小山・南谷遺跡 平成5年度』香川県教育委員会
- 片桐孝浩 1997『県道高松志度線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 小山・南谷遺跡Ⅰ』香川県教育委員会



第100図 高松平野出土の大型素材剥片①(S=1/4)



第101図 高松平野出土の大型素材剥片②(S=1/4)

木下晴一 2000『県道高松志度線緊急整備工事および県立医療短期大学建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 原中村遺跡』香川県教育委員会

木下晴一 2002『空港跡地整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第5冊 空港跡地遺跡Ⅴ』香川県教育委員会

蔵本晋司・森下友子 1992『高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第1冊 東山崎・水田遺跡』香川県教育委員会

菅栄太郎 1992『弥生時代の石器生産と流通 - 讃岐平野における一様相と近畿地域との関連性 -』『同志社大学考古学シリーズ V 考古学与生活文化』同志社大学考古学シリーズ刊行会

高田浩司 2001『吉備における弥生時代中期における石器の生産と流通』『古代吉備 第23集』

高田浩司 2002『中部瀬戸内と畿内の打製石剣 - その経済的側面と観念的側面 -』『考古学研究 第49巻 第1号』

中西克也 2006『都市計画道路室町新田線埋蔵文化財発掘調査報告 第3冊 新田本村遺跡』高松市教育委員会

西岡達哉 2003『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第四十六冊 池の奥遺跡・金毘羅山遺跡Ⅱ』香川県教育委員会

藤井雄三・山本英之 1989『久米池南遺跡跡発掘調査報告書』高松市教育委員会

古高松郷土誌編集委員会 1977『古高松郷土誌』

藤好史郎・西村尋文 1990『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅶ 下川津遺跡』香川県教育委員会

藤好史郎 1997『屋島城と城山城 - 古代山城研究の一視点 -』『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター研究紀要Ⅴ』(財)香川県埋蔵文化財調査センター

森格也 1995『高松平野における弥生時代の石器生産と流通』『高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第6冊 上天神遺跡』香川県教育委員会

森格也 1997『高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第7冊 鴨部・川田遺跡Ⅰ』香川県教育委員会

山下平重 1999『高校新設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第1冊 多肥松林遺跡』香川県教育委員会

山下平重 2000『四国横断道自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第三十六冊 金毘羅山遺跡Ⅰ・塔の山南遺跡・庵の谷遺跡』香川県教育委員会

山本英之・山元敏裕 1993『一般国道11号高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第1冊 浴・長池遺跡』高松市教育委員会

山元敏裕 1995『一般国道11号高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第4冊 井手東Ⅰ遺跡』高松市教育委員会

山元敏裕・末光甲正 1999『都市計画道路室町新田線埋蔵文化財発掘調査報告 第1冊 川南・西遺跡』高松市教育委員会

山元敏裕 2003『史跡天然記念物屋島 - 史跡天然記念物屋島基礎調査事業調査報告書Ⅰ -』高松市教育委員会